

1 題材の概要

題材名 これからの食生活について考えよう ―Well-beingの視点で暮らしをカスタマイズ―
B(3)ア(ア)(イ)(ウ)

授業の概要：食生活において自分自身のウェルビーイング（Well-being：幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態）を求めるとともに、家族、地域・社会のウェルビーイングを求めていくために、これから自分はどのような意思決定をしたいのか、また、そのためにはどのようなスキルが必要かをそれぞれの課題で試行錯誤を積み重ねて感じたことを通して考える。

	目標	評価規準	評価資料
知識 ・技能	・材料に適した加熱調理の仕方について科学的な根拠を基にしながら理解している。 ・IoT家電（プログラミングトースター、自動調理機）を用いて、効率的かつ環境に配慮しながら、条件（対象、調理器具、食材、おいしさ等）に応じた調理に取り組むことができる。	・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、条件に応じた基礎的な調理が適切にできる。	行動観察 実習レポート
思考 ・判断 ・表現	・条件（対象、調理器具、食材、おいしさ等）に応じた調理に取り組み、心豊でウェルビーイング（well-being：幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態）な食生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫することができる。	・条件に応じた調理について問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な食生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。	行動観察 実習レポート 話合いのワークシート
主体的に学習に取り組む態度	・条件（対象、調理器具、食材、おいしさ等）に応じた調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分自身や家族、地域社会のウェルビーイングを目指してどのような意思決定をしたいか、そのためにはどのようなスキルが必要かを考えようとしている。	・条件に応じた調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・よりよい食生活を目指して、食事の役割や栄養、献立、調理などについて、工夫し創造、実践しようとしている。	行動観察 実習レポート 話合いのワークシート

2 題材の展開

題材の流れ（全8時間）

本時（8／8時）の流れ

1	「お手軽サヴァ缶クッキングに挑戦～おいしさの探究～」に取り組む。「お手軽サヴァ缶レシピ」に関するプログラミングトースターのプログラムや材料を検討し調理を行う。
2	
課外	夏休みの課題として「お手軽サヴァ缶クッキング」に取り組み、共有する。
3	鍋と自動調理鍋（IoT家電）による肉じゃがの調理実習に取り組み、これからの生活への生かし方について考える。
4	
5	養護教諭をゲストティーチャーに迎え、食物アレルギー（乳・卵・小麦）に配慮した献立を考える。
6	「みんなのクッキー」として対象者にあわせてどんなクッキーを作るのかを想定し、材料やプログラミングトースターのプログラムを検討し、クッキーを焼く。
7	
8	ウェルビーイングの視点で暮らしをカスタマイズしていくことをテーマにこれからの食生活について考える。

本時の目標

ウェルビーイングの視点で暮らしをカスタマイズしていくことをテーマにこれからの食生活について考える。

1. これまでの食生活の学習を振り返る。（10分）
2. これからの食生活についてウェルビーイングの視点で自分自身が大切にしたいことや取り組みたいことをこれまでの食生活の学習を振り返りながら整理する。（7分）
3. TSUNAGU Food Corporationのシェフとして、暮らしをカスタマイズしていくことの大切さを提案するためのプランを提案するため、2で考えたことをダイヤモンドランキングで重視することを整理する。（10分）
4. 3について、お互いの考えを共有する。（18分）
5. 本時の学習を振り返る。（5分）

本授業で育てたいグローバル・コンピテンス

この学習課題に取り組む

ことで

こんなグローバル・コンピテンスを
発揮した学習者の姿が生まれる

ウェルビーイングの視点で暮らしを
カスタマイズしていくことをテーマに
これからの食生活について考える。

これからの食生活について考えていくために、グローバルな視点でさまざまな問題に目を向けることができる。自分自身のみならず、家族やグローバルな視点での地域社会のウェルビーイングを求め、持続可能な食生活を自分事として捉え、暮らしをカスタマイズしていくことの大切さに気づくことができる。

焦点化して育みたいグローバル・コンピテンス

定義	【グローバルな問題の発見・検討】 地域、世界、異文化間の問題を検討し、 【異文化・他者理解】 他者の視点と世界観を理解し認め、 【異文化間交流】 異なる文化を持つ人々とオープンで適切で効果的な関わりを持ち 【企画・行動】 共同体の幸福(ウェルビーイング)と持続可能な開発のために行動する能力			
要素	知識	スキル	態度	価値観
	グローバルな問題や、異文化理解に関する知識。 1. 地理的知識 2. 歴史的知識 3. 社会・文化的知識 4. 経済的知識	異文化間コミュニケーションや、グローバルな問題の解決、批判的思考などのスキル 1. 異文化間コミュニケーションスキル 2. 問題解決スキル 3. 批判的思考スキル	異文化、他者への理解と尊重を深める積極的な態度 1. 開放的で柔軟な態度 2. 他者を尊重する態度 3. 社会的・環境的責任を果たす責任感	異なる文化を持つ人々との協力と対話を促進する価値観 1. 公平性と公正性 2. 持続可能性 3. 平和(対話・協力・共存)

これからの食生活について考えよう —Well-beingの視点で暮らしをカスタマイズ—

これからの食生活において自分はどのような意思決定をしていくのか、また、そのためにはどのようなスキルが必要なのだろうか。

サステナブルライフを創造する

心豊かな生活の自立を目指し、情報・ものづくり・衣食住・家族家庭生活・消費環境などを学びます。実験や実習、作品製作を通して、知識やスキルだけでなく、エビデンスにもとづいた科学的思考力や応用力、ものや人を大切に考える姿勢や実生活で実践してみようという意欲につなげていくことを大切にしています。

ICT 履修を過ぎた学年間の交流
外部講師による内容特約的な授業
附属幼稚園と連携した取り組み
附属高校生とのエシカル交流授業

ひと・こと・もの・とのつながりのある学び

プログラミングを活かした未来志向の次世代の食生活について考え、健康・安全・快適の視点に加えて環境に配慮した持続可能な食生活を工夫する

お手軽サヴァ缶レシピ

中学校1年生技術・家庭科(技術分野)で取り組んだプログラミングトースターの学習を振り返りながら「お手軽サヴァ缶クッキングに挑戦～おいしさの探究～」に取り組んだ。サヴァ缶に組み合わせる材料やトースターのプログラムを検討し、試行錯誤を積み重ね、おいしさを探ることができた。

夏休みの課題「お手軽サヴァ缶レシピ」の取り組みでは、学校で取り組んだ調理での学びを活かして、加熱時間を調整したり、相性のよい食材の組み合わせを検討したりする様子や環境に配慮した調理を実践する様子が見られた。

技術革新による新たな調理家電を活用した未来志向の食生活について知る

IoT家電による肉じゃがの調理

鍋とIoT家電(自動調理鍋)の2つの調理方法で日本の代表的な家庭料理である肉じゃがの調理を行った。鍋とIoT家電(自動調理鍋)の調理方法の違いに着目させながら調理に取り組んだ。出来上がった肉じゃがを盛り付け、材料への火の通り方、味などの調理方法による違い等の点から評価した。IoT家電の活用を含めたさまざまな調理方法のこれからの生活への生かし方やこれからの食生活について自分なりの考えを持つ様子が見られた。

臨機応変に学びを暮らしにカスタマイズする力をためす

みんなのクッキー

条件(グローバルな視点を含む)、年齢、食物アレルギーの有無等の条件を設定し、粉類・油脂・砂糖の組み合わせとその際の加熱条件の検討に取り組んだ。条件を決定する際は、食物アレルギーに配慮した献立づくりや帰国生徒教育学級の生徒が1年生の時に作成したサイト「クッキーで世界の仲間とつながろう」の情報等を参考にした。ベースとなるプログラムを修正し、試行錯誤に取り組む様子が見られた。世界の仲間とつながるレシピプログラムにつなげていきたい。